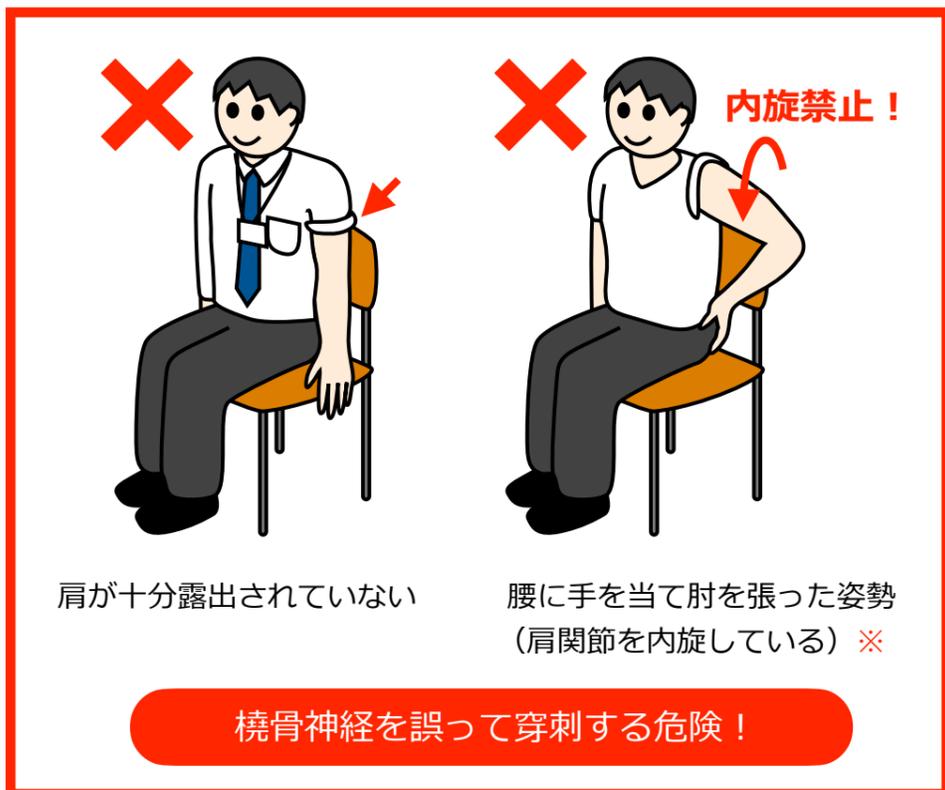


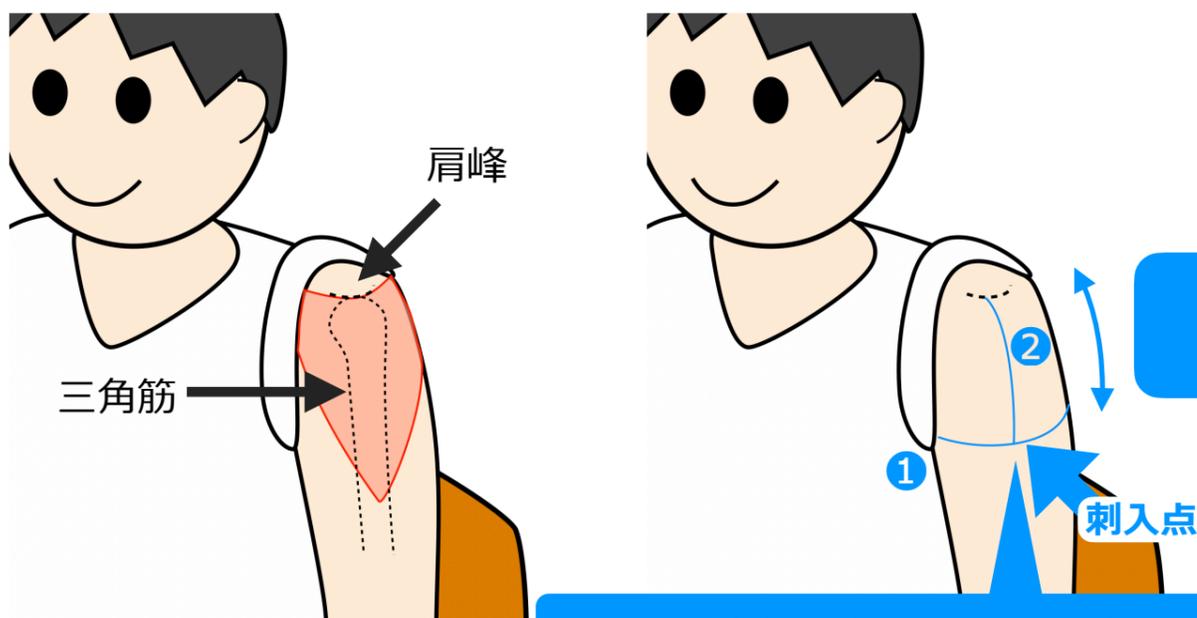
筋肉注射される者は背もたれのついた椅子に座り、  
肩峰から上腕までしっかり露出する。  
肘は自然に下ろした姿勢で、手のひらが体幹を向くように



肩が十分露出されていない

腰に手を当て肘を張った姿勢  
(肩関節を内旋している) ※

橈骨神経を誤って穿刺する危険!



まず肩峰と三角筋をよく触知しておく

- ①前後の腋窩ひだの上縁を結ぶ線 (上腕と体幹が分かれる高さ) と、
- ②肩峰中央からの垂線の交点が刺入点

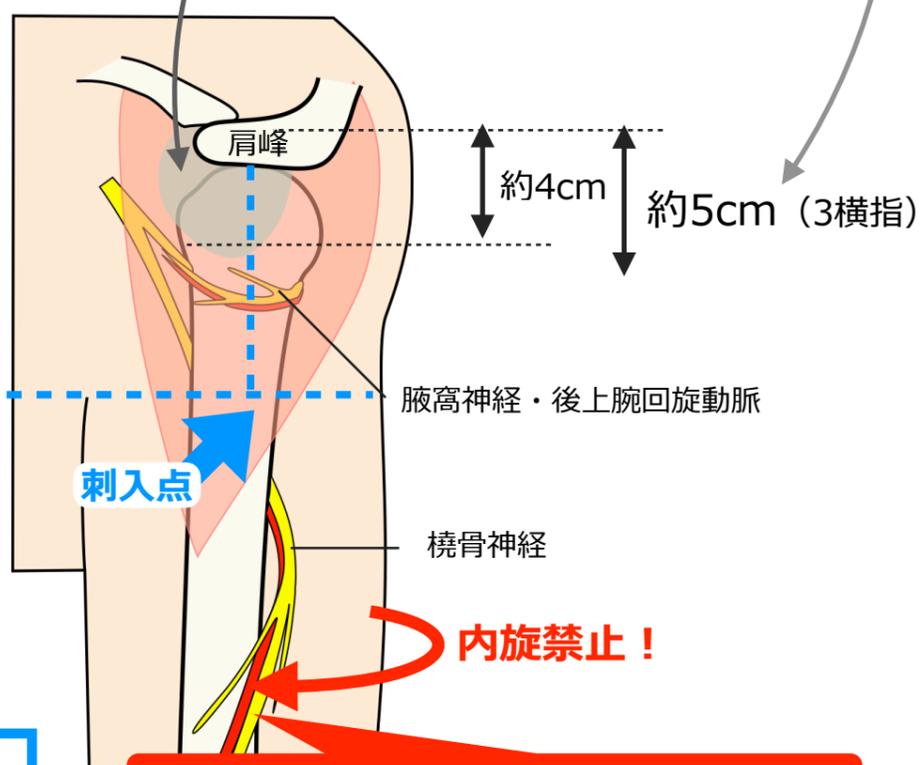
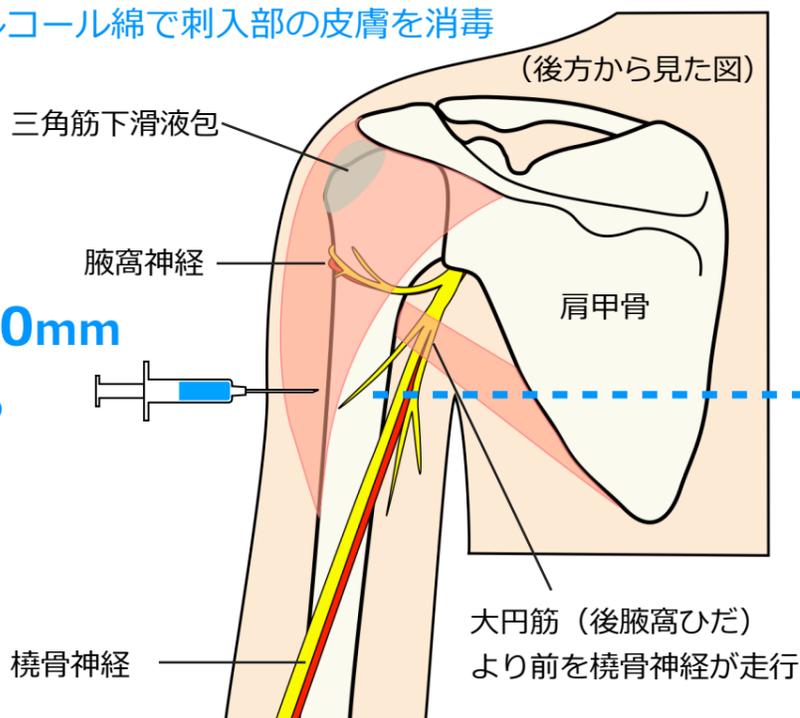
約10cm前後になることが多い

従来教科書に記載されている、「肩峰から3横指下」は、腋窩神経に当たる高さのため、好ましくない

肩峰より平均約4cmまでの高さには、三角筋下滑液包が三角筋の裏に存在する。ワクチンの誤注入によるSIRVA (Shoulder Injury Related to Vaccine Administration)が海外で多数報告されており、穿刺を避ける。

穿刺前にアルコール綿で刺入部の皮膚を消毒

垂直に20mm  
穿刺する



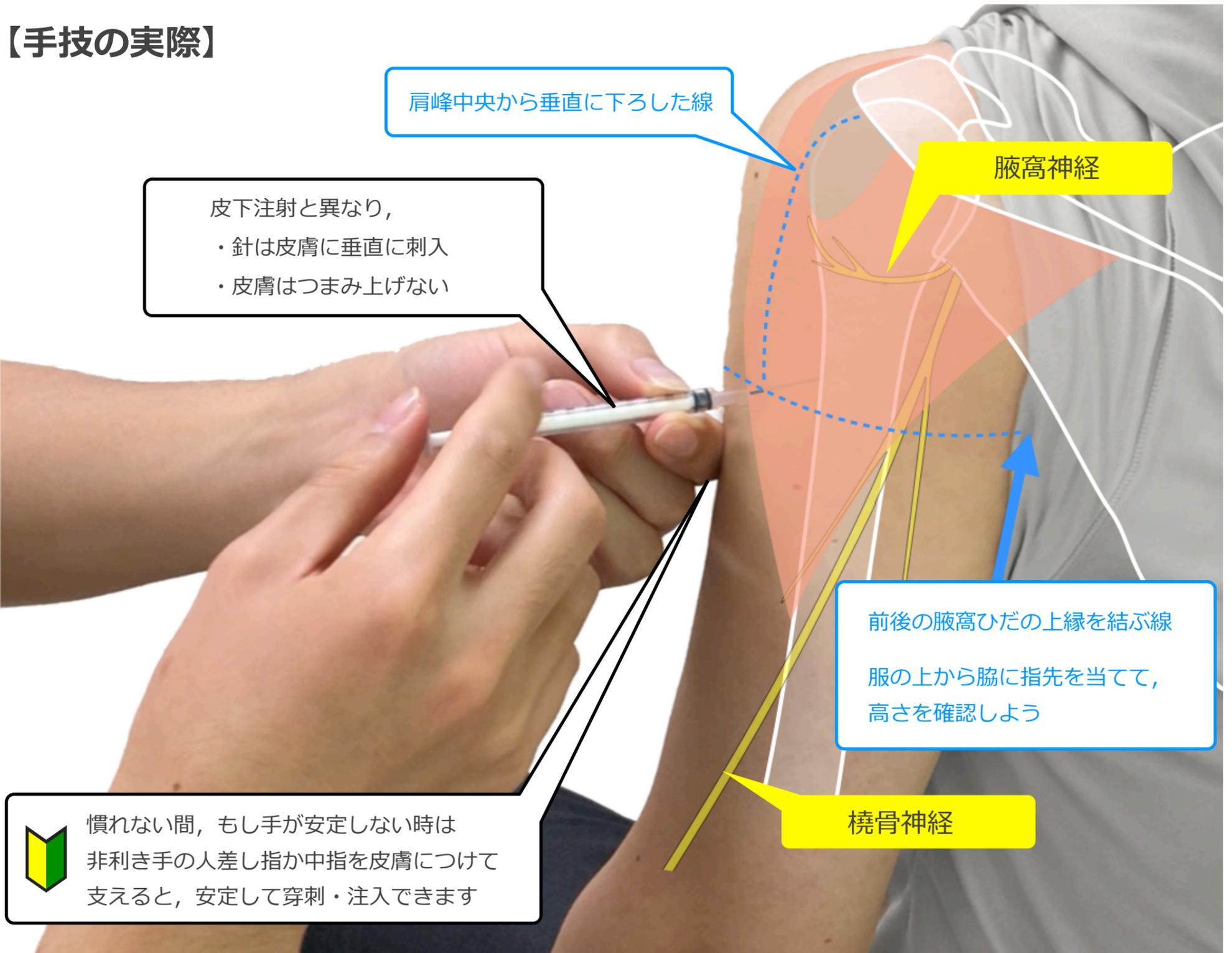
※肘を張った姿勢で、肩を内旋して注射すると  
橈骨神経を損傷する可能性がある

Nakajima Y, Mukai K, et al.

参考文献: Establishing a new appropriate intramuscular injection site in the deltoid muscle Hum Vaccin Immunother. 2017

- 血液の逆流の確認は必ずしも必要ではない
- 骨に当たった場合は、2,3mm引き戻してから注入
- 強い痛みを訴えた場合は、針は一旦皮膚から抜くこと
- 注射後に揉む必要はない

# 【手技の実際】



肩峰中央から垂直に下ろした線

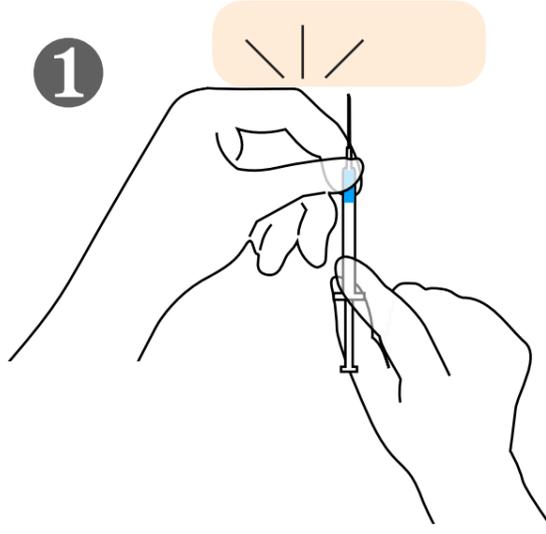
腋窩神経

皮下注射と異なり、  
 ・針は皮膚に垂直に刺入  
 ・皮膚はつまみ上げない

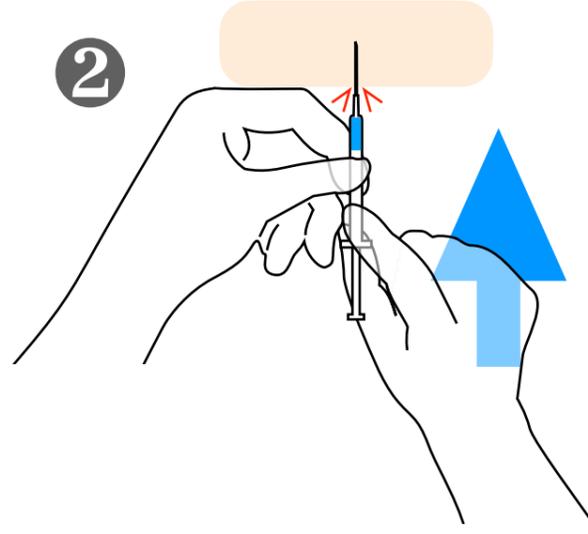
前後の腋窩ひだの上縁を結ぶ線  
 服の上から脇に指先を当てて、  
 高さを確認しよう

橈骨神経

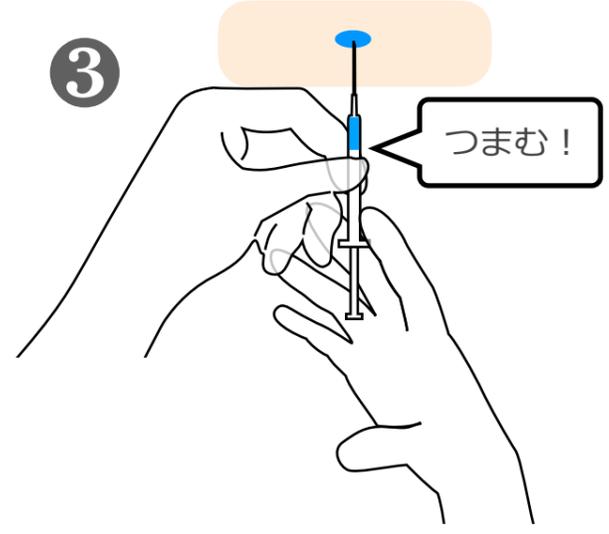
慣れない間、もし手が安定しない時は  
 非利き手の人差し指か中指を皮膚につけて  
 支えると、安定して穿刺・注入できます



狙いを定めて、左手でシリンジを保持  
 左手指の一部を皮膚に当てて安定化する

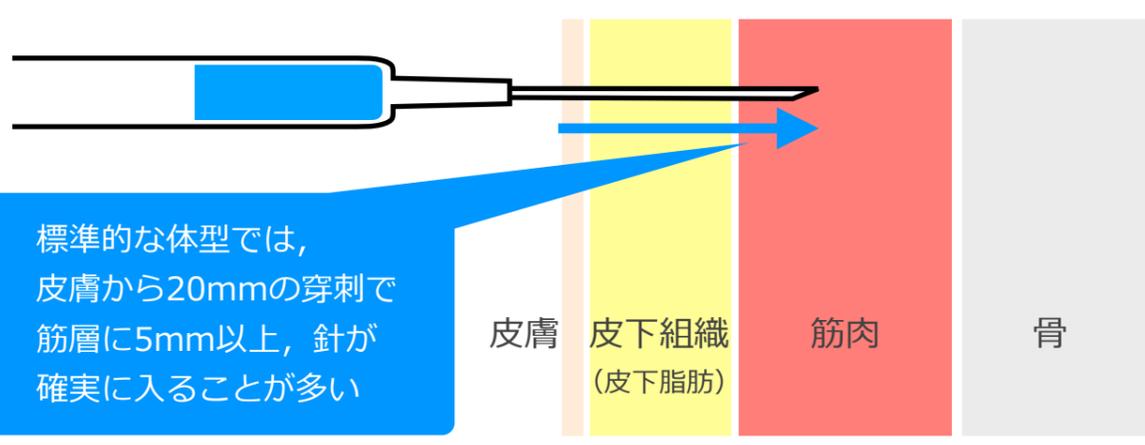


左手は動かさず、右手でまっすぐ  
 シリンジを動かして針を刺入する



左手でシリンジをしっかり持ち、  
 右手を持ち替えて、注入する

「刺した瞬間に、接種される人が動いたらどうしよう？」と、左手で腕をつかみたくなるかもしれませんが、実際はそんなに動かれることはないです。むしろ刺入位置がずれたり、深く刺さりすぎたりしにくい方法です。



標準的な体型では、  
 皮膚から20mmの穿刺で  
 筋層に5mm以上、針が  
 確実に入ることが多い



25mm  
 当院の25G針（テルモ製）の針の長さは25mmです